

自主的・実践的な態度を育てる望ましい集団活動の在り方
～縦割り集団活動を通して～

日上市立坂本中学校

1 はじめに

本校生徒は明るく素直で、落ち着いた雰囲気の中で日々の教育活動が推し進められている。しかし、数年前から、新入生が減少し続ける流れに歯止めがかからない状況となり、日常の学級を中心とした活動だけでは、多様な人間関係を結んでいく力や習慣の育成には困難をきたす状況となった。そこで、小さな学級集団を超える縦割り集団を組織して活動を行うことにより、多様な人間関係の築き方を学ぶことができるのではないかと考え、3年前から積極的に縦割り集団活動に取り組んでいる。

2 本年度の実践事例

(1) 縦割り集団結団式まで

在籍生徒数は、1年生14名、2年生13名、3年生29名、合わせて全校生徒数56名。2つの縦割り集団を結成し、本年度の生徒会スローガン「ALL STARS～限らない夢に向かって～」を受けて、団名は「キラ星団」「一桃星団」に決定し、イメージカラーも黄色とピンクに決まった。

(2) 八宝祭（体育祭）における縦割り集団活動

八宝祭は「ソフトバレーボールの部」と「生徒会主催種目の部」の二部構成とし、縦割り集団対抗戦で優勝を競った。

生徒会主催種目は、生徒会が行ったアンケート調査結果をもとに「オールツナヒキ（縦割り集団対抗綱引き）」と「スターダッシュ（縦割り集団全員リレー）」の2種目を実施した。種目内容の詳細から準備、練習、当日の進行まで、生徒主体で進められ、八宝祭は大成功に終わった。



(3) 合唱コンクールにおける縦割り集団合唱

紫苑祭（文化祭）のメインである合唱コンクールは、自由曲の「クラス合唱」と両団共通曲として「明日という日が」を歌う「縦割り集団合唱」を行った。縦割り集団活動を見据え、時間割の学活、総合を全学年同じ時間に設定しており、その時間を有効に活用して「縦割り集団合唱」の練習に取り組んだ。合唱を通して連帯感や団結力を養い、人間性豊かな生徒の育成を図ることができた。

(4) その他

環境整備作業、愛校日活動、体力トレーニング等も縦割り集団で行った。「3年生を送る会」では、プログラムの最後に「縦割り集団ラストミーティング」が組まれており、3年生が万感の思いを込めて下級生にメッセージを送るシーンが期待される。

3 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

- ・狭く固定化しがちな学級での人間関係に比べ、多様な人間関係を学ぶことができた。
- ・生徒の自主的、実践的な活動により、社会参画の資質・能力が育まれた。

(2) 課題

- ・全校生徒数のさらなる減少に対応した縦割り集団活動の在り方を検討する。
- ・職員、保護者、地域も参加しての新たな集団づくりを工夫する。